

■ 概況

5/20～5/26のNYMEX・WTI先物市場は、62.05～66.21ドルの範囲で推移した。

5月27日は、米国雇用指数の改善、コロナからの経済回復の動きを受けて、5営業日続伸した。イラン核合意に関する米・イラン間の間接協議の報道が上値の重しになっている。7月限の終値は前日比0.64ドル高の66.85ドル。

週末28日は、ドライブシーズン入りを前に、石油需要の回復への期待感から、買いが先行したが、このところの高値から利食い売りや3連休を前にしたポジション調整の売りが優勢になり、6営業日ぶりに反落した。なお、米国内の移動中の石油掘削装置は前週末比3基増の359基で4週連続の増加。7月限の終値は前日比0.53ドル安の66.32ドル。

31日は、メモリアルデー（戦没者追悼記念日）の休日で休場。

連休明け1日は、米国の夏のドライブシーズン入りで、需要回復への期待感で、大幅に反発した。この日、OPECプラスは、閣僚監視委員会（JMMC）をWEB開催し、予定通り、6～7月の段階的減産緩和を実施することを確認した。ただ、イラン核合意をめぐる協議の進展への懸念が相場の重し。7月限の終値は1.40ドル高の67.72ドル。

2日は、欧米のワクチン接種の進展を背景に、今後の石油需要の伸びへの期待が高まり、続伸した。翌日発表予定の米国在庫週報で原油・ガソリンともに取り崩しが予想されていること、また、前日のOPECプラス協議で段階的減産緩和方針が維持されたことも、上昇要因だった。7月限の終値は前日比1.11ドル高の68.83ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（7月渡し）は、5月20日～26日の間63.60～67.20ドルの範囲で推移した。5月27日67.10ドル、28日67.80ドル、31日67.90ドル、6月1日68.30ドル、2日68.80ドルと推移した。

為替は5月20日～26日の間108.75～109.25円の範囲で推移した。5月27日109.16円、28日109.97円、31日109.76円、6月1日109.41円、2日109.65円で推移した。

財務省が5月28日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、5月上旬の原油輸入平均CIF価格は、44,465円/klで、前旬比1,384円安、ドル建て65.23ドルで前旬比1.35ドル安、為替レートは1ドル/108.33円。

そのような中で、5月31日時点の小売価格は、ガソリンが前週（5月24日）比0.1円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は同1円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリンは26週ぶりの値下がり、軽油も26週ぶりの値下がり、灯油は26週連続の値上がりだった。この週（6月第1週）の原油コストは値上りし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の引き上げとなった模様。

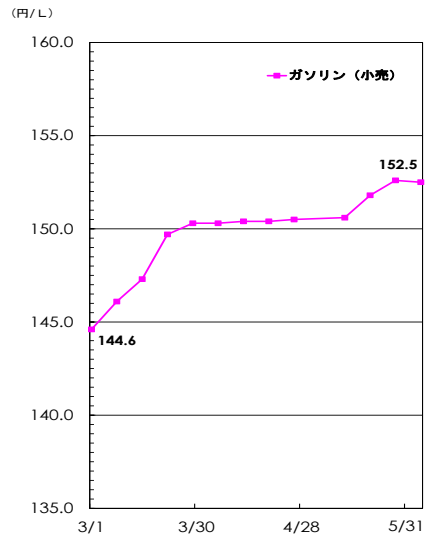
| 原油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|------------------------|-------------|----------------|----------|
| 需給 | 原油処理量 (千kl) | 5/23 ~ 5/29 | 2,420 ▲184 | ▲ - |
| | トッパー稼働率 (%) | " | 62.9 ▲4.8 | ▲ - |
| | 原油在庫量 (千kl) | 5/29 | 11,234 ▼-165 | ▼ - |
| 価格 | 中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl) | 5/31 | 66.35 ▲2.63 | ▲ 28.7 |
| | WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl) | 6/1 | 67.72 ▲1.67 | ▲ 32.3 |
| | 原油CIF単価 (\$/bbl) | 5月上旬 | 65.23 ▼-1.35 | ▲ 40.27 |
| | ①原油CIF単価 (¥/kl) | " | 44,465 ▼-1,384 | ▲ 27,655 |
| | ②ドル換算レート (¥/\$) | " | 108.33 ▲1.15 | ▼ -1.26 |
| | 外国為替TTSレート (¥/\$) | 5/31 | 110.76 ▼-0.78 | ▼ -2.02 |



(単位：千kl、円/%)

| ガソリン | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|------|----------------------------|-------------|--------------|------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/23 ~ 5/29 | 784 ▲ 50 | ▲ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 595 ▼ -80 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 0 ➡ 0 | ▼ - | |
| | 在庫 | 5/29 | 2,274 ▲ 189 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/25 ~ 5/31 | 61.1 ▼ -0.3 | ▲ 28.0 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/25 ~ 5/31 | 59.5 ▲ 1.1 | ▲ 26.1 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/31 | 60.2 ▲ 0.7 | ▲ 26.2 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/31 | 152.5 ▼ -0.1 | ▲ 24.1 | |

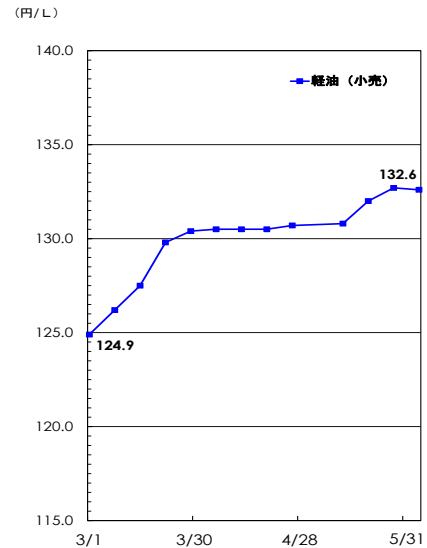
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

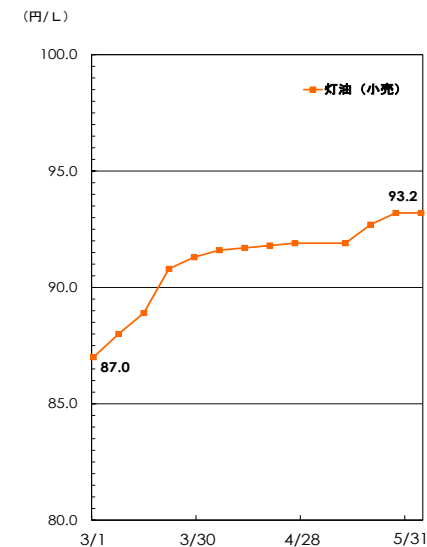
| 軽油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|--------------|------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/23 ~ 5/29 | 536 ▼ -17 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 458 ▼ -149 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 50 ▲ 45 | ▼ - | |
| | 在庫 | 5/29 | 1,914 ▲ 28 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/25 ~ 5/31 | 63.2 ▼ -0.3 | ▲ 26.1 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/25 ~ 5/31 | 65.3 ▲ 1.5 | ▲ 20.5 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/31 | - | - |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/31 | 132.6 ▼ -0.1 | ▲ 23.3 | |

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

| 灯油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|-------------|------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/23 ~ 5/29 | 115 ▼ -45 | ▲ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 71 ▼ -47 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 0 ▼ -16 | ▼ - | |
| | 在庫 | 5/29 | 1,563 ▲ 44 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/25 ~ 5/31 | 62.6 ▼ -0.1 | ▲ 26.5 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/25 ~ 5/31 | 58.4 ▲ 1.0 | ▲ 24.8 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/31 | 61.4 ▲ 1.0 | ▲ 25.9 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/31 | 93.2 ➡ 0.0 | ▲ 16.2 | |



■ 関連情報

1 海外/原油

6月2日のNYMEXのWTI先物原油は続伸した。欧米における新型コロナワクチン接種の進展を背景に、米国では6月から夏のドライブシーズンを迎え、今後の石油需要の伸びへの期待が高まった。連休のため翌日発表予定となった米国在庫週報は、原油・ガソリンともに取り崩しが予想されていること、また、前日のOPECプラス協議で需要の回復に見合った段階的な減産緩和方針が維持されたことも、上昇要因となった。一時は69.00ドルと2018年10月下旬以降2年7か月ぶりの高値を付けた。7月限の終値は前日比1.11ドル高の68.83ドル、8月限の終値は1.11ドル高の68.63ドル。

EIAによると、5月31日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.7セント値上がりの1ガロン3.027ドル(88.5円/ℓ)、ディーゼルは同0.2セント値上がりの3.255ドル(95.1円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは5週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年5月23日～5月29日に休止したトッパー能力は94.7万バレル/日、前週に対して11.8万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は242.0万klと、前週に比べ18.4万kl増加。前年に対しては39.2万klの増加。トッパー稼働率は62.9%と前週に対して4.8ポイントの増加、前年に対しては11.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、C重油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/6.8%増、ジェット/16.9%増、灯油/28.0%減、軽油/3.2%減、A重油/9.8%増、C重油/16.8%減。今週のC重油の輸入は1.0万kl(前週比0.0万kl増)。軽油の輸出は5.0万kl(前週比4.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は59.5万kl(対前週11.8%減)と2週振りで減少した。ジェット9.1万kl(対前週10.6%増)、灯油7.1万kl(対前週39.5%減)、軽油45.8万kl(対前週24.5%減)、A重油18.3万kl(対前週9.5%増)、C重油16.5万kl(対前週0.7%減)。

(単位:千kl)

| | 今週 (5/23 ~ 5/29) | 前週 (5/16 ~ 5/22) | 前週比 |
|--------|---------------------|---------------------|---------------|
| ガソリン | 595 | 675 | ▼ -80 (-12%) |
| ジェット燃料 | 91 | 83 | ▲ 8 (10%) |
| 灯油 | 71 | 118 | ▼ -47 (-40%) |
| 軽油 | 458 | 607 | ▼ -149 (-25%) |
| A重油 | 183 | 167 | ▲ 16 (10%) |
| C重油 | 165 | 166 | ▼ -1 (-1%) |
| 合計 | 1,563 | 1,816 | ▼ -253 (-14%) |

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月29日時点の在庫は、ジェット、C重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは227.4万kl、前週差18.9万kl増。前年に対しては42.0万kl多い。

灯油は156.3万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては4.8万kl少ない。

軽油は191.4万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては56.0万kl多い。

A重油は78.5万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては4.8万kl多い。

C重油は197.3万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては0.5万kl多い。

(単位:千kl)

| | 今週 (5/29) | 前週 (5/22) | 前週比 |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| ガソリン | 2,274 | 2,085 | ▲ 189 (9%) |
| ジェット燃料 | 740 | 749 | ▼ -9 (-1%) |
| 灯油 | 1,563 | 1,519 | ▲ 44 (3%) |
| 軽油 | 1,914 | 1,886 | ▲ 28 (1%) |
| A重油 | 785 | 774 | ▲ 11 (1%) |
| C重油 | 1,973 | 1,988 | ▼ -15 (-1%) |
| 合計 | 9,249 | 9,001 | ▲ 248 (2.8%) |

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月25日～31日の指標原油価格は前週(5月18日～24日)比で値上がり、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(6/3～6/9)の大手元売卸価格は、産油国国営石油会社の出荷原油価格の5月の調整金値上げ分を含めて、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比1.5円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月25日～31日の製品スポット市況は、5月18日～24日平均と比べ、全ての陸上取引、ガソリンと軽油の海上取引は値下がりしたが、全ての先物取引と灯油の海上取引は値上がりした。

直近(5/25～5/31)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。直近週(5/25～5/31)において、ガソリンは114～115円台で値上がり、灯油は62～63円台で値上がり、軽油は62～64円台で値下がり後大きく値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/25～5/31)に、前週比で、ガソリンは0.4円の値下がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.5円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(5/25～5/31)に、ガソリンは116円台でほぼ横ばい、灯油は59～61円台で大きく値上がり、軽油は64円台でほぼ横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。先物価格は、同期間(5/25～5/31)に、ガソリン113円台で値上がり、灯油57～58円台でわずかに値下がり後値上がり、軽油64～65円台で値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

| 陸上ローリー 4地区平均] | 今週 (5/25～5/31) | 前週 (5/18～5/24) | 前週比 |
|------------------|----------------|----------------|--------|
| | レギュラー | 61.1 | 61.4 |
| 灯油 | 62.6 | 62.7 | ▼ -0.1 |
| 軽油 | 63.2 | 63.5 | ▼ -0.3 |

(TOCOM) (単位: 円/%)

| [期近物/終値] [平均] | 今週 (5/25～5/31) | 前週 (5/18～5/24) | 前週比 |
|------------------|----------------|----------------|-------|
| | レギュラー | 59.5 | 58.4 |
| 灯油 | 58.4 | 57.4 | ▲ 1.0 |
| 軽油 | 65.3 | 63.8 | ▲ 1.5 |

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/25～5/31実績値) (単位: 円/%)

| 油種 | 現物 | 先物 | 平均 |
|------|--------|-------|-------|
| ガソリン | ▼ -0.3 | ▲ 1.1 | ▲ 0.4 |
| 灯油 | ▼ -0.1 | ▲ 1.0 | ▲ 0.4 |
| 軽油 | ▼ -0.3 | ▲ 1.5 | ▲ 0.6 |
| A重油 | ▼ -0.3 | | |

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月31日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(5月24日)比0.1円安の152.5円、軽油も同0.1円安の132.6円、灯油は18%ペースで同1円高の167.8円(1%ペースでは同横ばいの93.2円)。ガソリンは26週ぶりの値下がり、軽油も26週ぶりの値下がり、灯油は26週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは23府県、横ばいは3県、値下がり21都道府県だった。全国最安値は146.1円の徳島県(同0.7円安)、その次に安かったのは146.5円の埼玉県(前週比0.1円安)、他方、最高値は162.6円の長崎県(同1.1円高)だった。最も値上がりしたのは同1.1円高の長崎県(162.6円)で、横ばいは長野県、静岡県、群馬

県の3県、最も値下がりしたのは同0.7円安の徳島県(146.1円)だった。

今週(5月25日～31日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(6月3日～6月9日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった模様。次回調査時(6月7日)のガソリンの小売価格は値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

| (資工庁公表) [週動向] | 今週 (5/31) | 前週 (5/24) | 前週比 | 直近高値 |
|------------------|-----------|-----------|--------|---------------|
| レギュラー | 152.5 | 152.6 | ▼ -0.1 | 08/8/4 185.1 |
| 灯油 | 93.2 | 93.2 | → 0.0 | 08/8/11 132.1 |
| 軽油 | 132.6 | 132.7 | ▼ -0.1 | 08/8/4 167.4 |

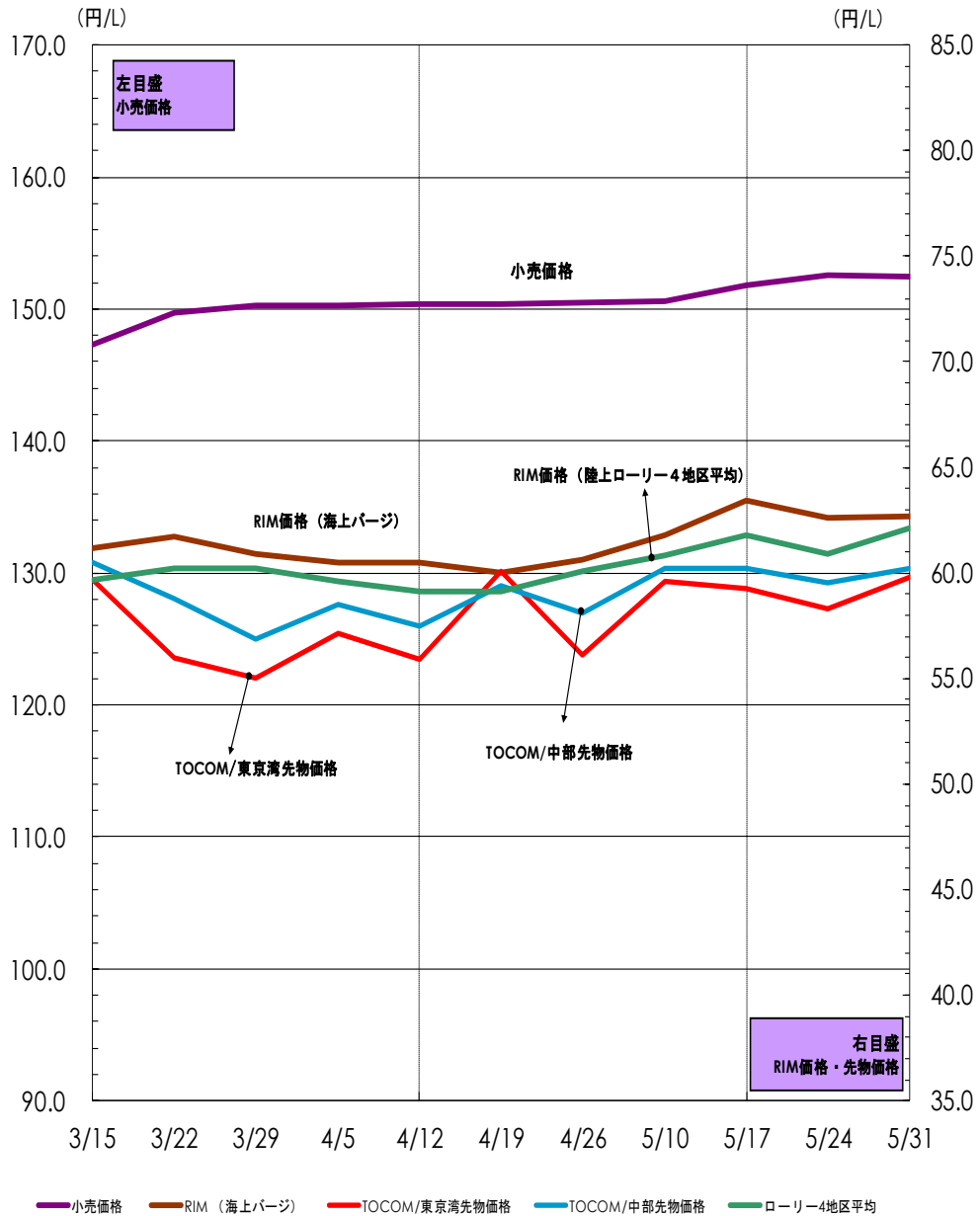
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/3/15 ~ 2021/5/31)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第10号)の公表は、6/11(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。